

【中学校第2学年の実践】

1 主題名

困難に立ち向かう勇気【A 希望と勇気、克己と強い意志】

2 教材

牛づくりの神様 町村 敬貴（北海道版道徳教材（中学校用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

希望と勇気、克己と強い意志とは、より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げることに関する内容項目である。生徒が生活の中で具体的な目標を設定し、その実現に向けて努力する体験をし、困難を乗り越える自分なりの方法を考えることができるようにすることが重要である。また、様々な人の生き方に学びながら生涯をかけての理想や目標を持ち、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることが、日々の生活を充実させるとともに、文化や社会の発展を支える力となってきたことに気付くことができるよう指導することが求められる。

第2学年の指導に当たっては、登場人物の生き方に迫りながら、希望をもつが故に直面する困難や、失敗に直面したとき、乗り越えようとする勇気や強い意志について、多面的・多角的に考えさせ、自己の可能性を伸ばし、人生を切り拓こうとする心情を育てていきたい。

(2) 生徒の実態【生徒観】

自己の可能性を伸ばし、人生を切り拓こうとする道徳的心情を育てるために、道徳の時間（H31からは道徳科）以外では次のような指導を行っている。

①外国語科

外国語科では、暗唱の課題に対して、目標を各自で設定してから取り組むようにした。生徒はより高い目標を設定し、その達成を目指して課題に取り組んでいた。

②日常活動の取組

日常活動の取組では、年間を通じて、個人目標の設定や、定期テストの目標と計画、取組について指導を行った。生徒は、自分で立てた目標に向かって努力するとともに、目標達成には何が必要かを考えていた。

③学校行事の取組

合唱祭や陸上競技大会では、学級や個人の目標を立て、その達成に向けて練習に取り組むようにした。また、上級生の取り組む様子を見ることなどを通して、目標をより高く設定できるようにした。陸上競技大会では、3年生が大縄跳びに取り組む姿を真剣に見つめ、「自分たちも来年はこんなふうになりたい」と、1年後の未来の自分について目標や希望をもつ姿が見られた。

これらの取組を通して、目標を達成できた生徒は達成感を持ち、さらに自身の力を伸ばそうと努力する姿が見られる。

一方で、失敗や挫折を恐れるあまり目標をやり抜く自信がもてず、弱さから一步踏み出す勇気をもてない姿も見られる。

このようなことから、本時の学習では、町村敬貴の生き方に触れ、誰もがもっている自己の様々な弱さと向き合いながら、困難に対し勇気をもって立ち向かい、自己の可能性を伸ばし、人生を切り拓こうとすることの大切さについて考えさせたい。

(3) 教材について【教材観】

困難に対し勇気をもって立ち向かい、自己の可能性を伸ばし、人生を切り拓こうとするこの大切さについて多面的・多角的に考えさせるために、敬貴が最初の農場づくりに失敗し、新たな土地を視察した場面を取り上げ、敬貴の気持ちについて考えることにより、人間理解を深めさせる。さらに、移転を決意した敬貴の思いを中心に話し合い、他者理解、価値理解を深めさせる。

本時においては、中心的な発問とそれを効果的にするための基本発問を次のとおり設定する。

1 「◎中心的な発問」の場面

→宇都宮氏の苦言に対して、新たな土地への移転を決意したことを告げる場面

◆意 図：草木が一本も生えていない土地であっても、新たな農場をつくることを決意した敬貴の思いを考えさせることにより、困難に対し勇気をもって立ち向かい、自己の可能性を伸ばし、人生を切り拓こうとするこの大切さに気付かせ、価値理解や他者理解を図りたい。

敬貴の思い：困難であることは分かっているが、北海道で酪農を成功させるという目標の実現に向けて、乗り越えていかなければならないという自分を奮い立たせようとする思い。

2 「○基本発問」の場面

→敬貴がアメリカに渡ってから日本に戻って農場を始めるまでの場面

◆意 図：敬貴が人生の中で数多くの困難や挫折に直面し、それらを乗り越えてきたことを捉えさせることにより、目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならず、困難や失敗を経験することがあることに気付かせたい。

→敬貴が最初の農場づくりに失敗し、新たな土地を視察した場面

◆意 図：農場の移転先を視察し、草木が一本も生えていない光景を目にしたときの敬貴の気持ちを考えさせることにより、困難に対し勇気をもって立ち向かうことについての価値理解を図りたい。また、困難に直面し挫折しそうになる気持ちについても考えさせ、人間理解を図りたい。

敬貴の思い：これまで様々な困難を乗り越えてきたが、新たな農場をつくるという大きな目標を前にした不安な思い。

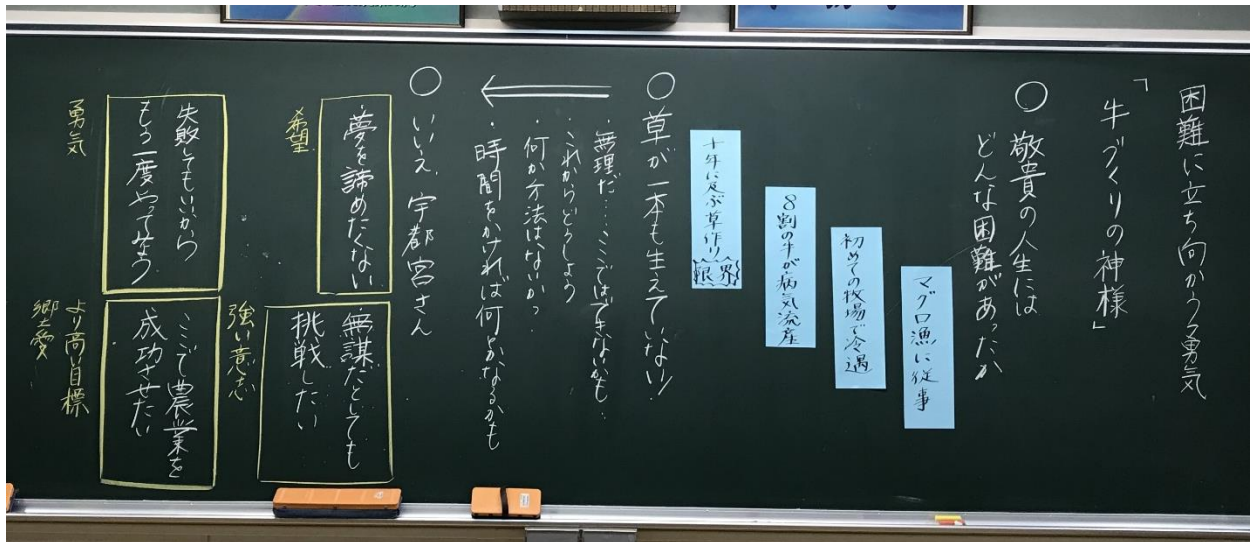
4 ねらい

町村敬貴の生き方に触れることを通して、人間としての弱さを克服し、より高い目標を設定して、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする心情を育む。

5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● これまでの経験を振り返る。 ○ これまでに自分が努力してきたことや、目標にしてきたことはどのようなものがありますか。	・自分自身の体験を想起させ、道徳的価値への方向付けを行う。	【工夫①】 ・これまでの経験を振り返らせることにより、本時で扱う価値について、自分との関わりで考えることができるようにする。
展 開	● 教材「牛づくりの神様」を読み、話し合う。 ○ 敬貴の人生には、どんな困難がありましたか。 ・初めての牧場で冷遇を受けた。 ・八割の牛が病気で流産した。 ・十年に及ぶ土地や草作りには限界があった。 ○ 草が一本も生えていない光景を目にして、敬貴はどんな思いで立っていたのでしょうか。 ・無理だ。ここではできないかもしれない。 ・何か方法はないか。 ・時間をかければ何とかなるかもしれない。 ◎ これまでの困難や失敗があったにも関わらず、移転を決めた敬貴には、どんな思いがあったのでしょうか。 ・夢をあきらめたくない。(希望) ・失敗してもいいから、もう一度やってみよう。(勇気) ・無謀だとしても挑戦したい。(強い意志) ・ここで農業を成功させたい。(より高い目標、郷土愛)	・困難や挫折を乗り越えてきたことを捉えさせる。 ・再起をかけた移転先の惨状を見た敬貴の葛藤に自己を重ね合わせて考えさせる。 ・ねらいとする価値を深められるように問い返すなどの工夫をする。	【工夫②】 ・主人公の気持ちを考えさせることで自我関与を促す。 ・困難に直面した時の心情を考え、交流させることにより、人間理解や他者理解を促す。 【工夫③】 ・生徒の考えを分類して板書することにより、道徳的価値について多面的・多角的に理解することができるようにする。
	● 自己を見つめる。 ○ 目標に向かって努力することについて、あなたはどんなことを大切にしたいですか。 ・可能性がある限り、何度もやってみることが大切だと思う。 ・目標をずっとあきらめない気持ちが大切だと思う。 ・失敗を恐れなくて挑戦できるようになりたい。 ・チャレンジしなければ成功は得られない。	■ 目標の達成に向けて努力する中で困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	【工夫④】 ・本時で扱う道徳的価値について大切にしたいことを問うことで、自分との関わりで考えることができるようにする。 ・それぞれの考えを交流させることで、道徳的価値の自覚を深めることができるようにする。
	● 教師の説話 ※学校行事に関連させ、生徒が目標の達成を目指してやり遂げたことなどを取り上げる。 ● 本時の振り返りをする。	・目標を目指し、やり抜くことに対する考えをまとめることにより、自分の考え方をこれからの生活に生かしているようとする態度が育まれるようにする。	
終 末			

6 板書



7 ノート・ワークシート

【道徳感想シート】

指示欄の日
月 日

道徳教科書

牛づくりの神様

※なお、自分の経験や思いで、どんなことを大切にしたのか、思いを込めて書いてください。

失敗してもすぐにはあきらめないで少しでも可能性のあるならもう一度やってみることが大切だと思う。

失敗をおそれないで、挑戦するのは正直今の自分にはできないし、すごいことだと思う。そういう人間になれたらいいなと思った。

【授業実践を振り返って】

困難に対し勇気をもって立ち向かい、自己の可能性を伸ばし、人生を切り拓こうとするこの大切さについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えることができるよう、敬貴が最初の農場づくりに失敗した場面を取り上げ、「これまでの困難や失敗があったにも関わらず、移転を決めた敬貴には、どんな思いがあったのか。」と問いかけました。生徒からは、

- ・夢をあきらめたくない。
- ・失敗してもいいから、もう一度やってみよう。
- ・無謀だとしても挑戦したい。
- ・ここで農業を成功させたい。

といった発言が出され、「希望」、「勇気」、「強い意志」、「郷土愛」など、本時で取り上げる内容項目について、多面的・多角的に考えることができました。

生徒から出された考えについては、内容や視点に応じて分類して板書することにより、視覚的に整理し、生徒が多面的・多角的に理解することができるようにしました。